

令和 6 年度 園評価書

園番号 50 園名 静岡市立原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
『自分が好き みんなが好き』	かんじ かんがえ つたえよう	子どもがじつくりと遊べるような場と時間が十分にある	・遊び出せない子どもに対してどうしたいのか、どうしてほしいのか気持ちを探り、自分から遊び出すタイミングを待ちながら援助している ・室内、戸外の遊びが繋がるような安心して遊べる場の拠点作りをしている	B	A	・小学校でも、秋に自然物を使ってゲーム作りをし、こども園の子ども達を招待している。こども園でも散歩で拾ってきた自然物でいろいろ作って遊んでいるとのことで、こども園で経験したことが小学校一年の生活科の活動につながっている	・積極的に発信できる子どもだけでなく、発信しづらい子どもにも目を向けて声を聞き、ゆったりと関わっていく ・保育者自身が季節を感じられる言葉を発することで子どもが気づけるようにしていく ・季節に応じた子どもの絵画や制作を展示し、子ども同士、保育者や保護者と一緒に見たりしながら季節を感じたり子どもの作品を褒めていく ・使いたい玩具、素材等がすぐに出せるよう教材庫の整理を常にし、物のリスト化をしていく ・保育者同士が穏やかな雰囲気、挨拶や、やりとりをしたり協力したりしていく ・自分がどんな挨拶をされたら心地良いのかを考えて、進んで子ども、保護者、職員、来園者に挨拶をしていく
		季節を感じながら園内や地域の自然事象に触れ、興味関心を持ち、遊びに取り入れながら遊ぶことができるような環境が用意されている	・散歩に出掛け風を感じたり、どんぐり、イチョウの葉など秋の自然物を見つけて拾って園に持ち帰り、どんぐり転がしや落ち場ブル、ままごと、楽器遊びなど五感を使った遊びに取り入れている	B	A	・挨拶、言葉は小学校でも焦点を当てて行っている。挨拶を進んですることで人との間わりや道徳を学んでいくので、是非園でも先生方が手本となつて挨拶をする姿を見せていってほしい	
		子どもが「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「ごめんね」「いただきます」など日常生活に必要な言葉が自然と出るように保育者自身が手本となっている	・笑顔で相手の目を見て進んで挨拶している。子どもの話したい気持ちを大切に受け止めたり、子どもと一緒に共感している ・子どもの思いをわかりやすく子どもに伝え、場合った言葉を少しずつ言えるようにしている ・乳児はまだ言葉が発することができない子どもいる。保育者が「おはよう」「いただきます」という言葉を使うことで、子どもと一緒に頭を下げた手手を含ませたりして気持ちの育ちが見られた	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・ウェブ図(遊びの構成図)に準備物や配慮を記述し、発達や子どもの興味・関心に合わせた遊びが用意されている	・ウェブ図で記録や加筆をすることで、遊びのつながりを意識したり子どもの興味関心に合った環境を用意している ・作成したウェブ図を基に園庭環境や改善点を話し合い、環境を整えている	B	A	・朝早くから夕方遅くまで、0歳児のまだ歩けない子から5歳児の体いっぱい動かす子までの子ども達が安心して過ごせるように環境の工夫がされている	・子ども達の思いと、保育者が経験させたいことが一致しているのか見直していく ・ウェブ図の書き方、子どもの捉え方などについての研修を行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムに合わせて安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように、子どもの思いに寄り添い、個々への配慮をしている	・保護者、職員間で子どもの様子を共有し、一人一人に合ったリズムで過ごせるようにしている ・子どもが自分のタイミングで休息を取れるような環境作りを行っている	A	A	・時間の無い中で、子ども達と真摯に向き合い一緒に遊んだり書類を書いたりよくやってくれている ・災害時対応は大人の意識を変えていくことが大切だと感じる。保護者も危機意識を高めていくと良い ・箸の持ち方など、どこまで学校教育でどこまでが家庭教育なのかを考えさせられる。家庭の支援をしながら、園と家庭と一緒に進めていくください ・毎月のケース会議など、小学校中学校も大変部分で、一人一人にあった居場所作りや支援をその都度行っている。共通理解する場を設けることの一步先をどう設定していくのかを考えていくことが必要だ ・保育室の乱雑さが気になる。帰った時と、朝来た時の保育室が一緒だ。片付けについては周知していただきたい。一番の環境は先生なのでだんだんと覚えてください ・コドモン導入で写真があり有難かった。家庭と園との協力が大切。保護者は園で子どもがどのように過ごしているのかを知りたい ・園児と小学生との対話の時間があって、福祉は「誰でも幸せになる」ということで行っている ・地域には是非出掛けて行き、本物を見たり体験しながら地域を知っていくと良い	・前日の子どもの様子を知らうえて、登園時に保護者対応できるよう担任間だけではなく、全職員で子どもの様子を共有できるように報告、連絡を取り合っていく ・素材や教材を知り、どのように遊びに使えるかを理解し、子ども達に用意できるように自己研鑽していく ・子どもが考え、じっくり遊びこめるように、遊び始めの環境を整えたり、臨機応変に環境を変えていく ・素材や教材を無駄のない正しい使い方ができるよう指導していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが感じる、気付く、考える、試す、工夫することが出来るような教材や素材が用意されている	・子どもの発達や興味に合わせた教材や素材を選んだり、手に取りやすい並べた方や置き方に配慮している ・保育者がまず遊びを楽しみ、環境作りをワクワクしながら楽しんで ・発達や遊びの様子から、用意する玩具の種類や量、配置の仕方を変えて子ども達が自ら遊べるような環境にしている	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	計画的に災害、不審者訓練、交通安全指導が行われ、園児に対して安全行動が身につく指導がされている	・毎月、様々な想定で訓練を行い、子ども、職員共に、冷静な行動や臨機応変の対応を考え、前月の反省を活かし次の訓練を行っている ・避難方法の固定概念を変え、どうしたら子どもの命が守れるのか、安全な方法はあるのかなど子どもと一緒に考えていった ・各クラス保育室の危険な場所、箇所を改善し対策を行った	B	A		・未告知の訓練を行い、職員の判断を養っていく ・訓練に保護者も参加してもらい、登園時、降園時などの想定で行っていくことで防災について考えてもらう機会を設ける ・避難滑り台の経験を年間計画に入れ実施していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	発達に合わせた食事のマナー(椅子の座り方や姿勢、食べ方など)身につけられるよう保育者が手本となり指導している	・子どもと一緒に食事をし、スプーンやお皿の持ち方や椅子の座り方など発達に合わせたマナーが身につくよう、箸の持ち方や姿勢などを個別に知らせている ・食べることが楽しい場となるように、一人一人の食量や偏食の多い子は個人差に配慮し、無理して食べさせることがないようにしている	B	A		・手洗いの歌を園全体で統一して取り組み、手洗いの大切さを楽しみながら知らせていく ・各学年ごとマナーなどをどこまで身につけさせたいか年間計画を確認しながら進めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース討議を月1回行い、職員間で支援方法を共通理解している	・ケース会議、サポーター会議を通して加配児、気になる子に対して園全体で支援している。全職員が子どもの姿を把握できない部分もあり、同じ関わりをしていけるように周知する方法が求められた	B	B		・全職員が加配児や気になる子の関わり方が周知できるよう、会議に参加できなかった職員に会議内容を報告する際に加配担当者も入り伝えていく ・発達に凸凹のある子の特徴や、その子どもが楽しく過ごせるポジティブ支援をケース会議で考え実践していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	毎週15分間の「子どもの育ち」トークを各クラス行っている	・すき間時間や午睡の子ども達が寝たところで、その日にあったことや行事について、子どもの様子などクラス担任で話している ・日々の保育の中で気づいたことを担任同士で伝え合っている	B	A		・クラス会議として、担任同士で伝え合う時間を計画的につくり行っていく ・担任以外の職員がクラスに入ってもわかるように、クラスノートに子どもの様子や出来事、伝達などを記入し連絡のツールにしている
6 研 修	(1)研修体制の充実	子どもの姿を知るために、写真や動画をを用いて語り合い（事例検討）を行う	・遊びの中で、「こうしてみよう」「やってみよう」とする子どもの思いに対する保育者の援助を写真や動画に撮り研修を行った。写真や動画での研修をくり返したことで、日々の細かな子どもの思いや気づきを以前よりも捉えることができた	B	A		・今年度、取り入れた写真、動画を用いた研修は引き続き行っていく。学びから生まれた課題をその後の保育につなげるために、より話し合い実践していくようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	「やってみたい」「またやりたい」と遊びがつながるような、物や場の残し方を工夫している	・子どもと遊びの続きや、作ったものを取っておく場所や置き方を一緒に考え、遊びが継続できるようにした ・遊びの様子や作ったものを写真に撮って掲示することで「またやりたい」という気持ちにつながった	B	A		・同じ場所と同じ遊びがある安心感した環境を作っていく ・とつき棚（作ったものなどをとっておく棚）を整理整頓することで物を大切にしようという気持ちを育ていく ・保育者が手本となり片付けを仕方を知らせていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの遊びや生活の様子を保育参加会、ドキュメンテーション、お便り配信で伝えている	・保護者がどのようなお便りなら読みたいかなかを考えて、写真を多くしたり子どもの育ちや学びを伝えたりしている ・親子で遊ぶう会では動画で普段の様子を見てもらい好評だった	B	A		・クラスや園全体の様子は、お知らせボードやお便り配信で伝えられるが、一人一人の頑張っている姿、夢中になっている姿、友達に優しく関わっている姿などエピソードは登降園時に伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や小学校との交流を行い、教育保育の情報交換を図り連携を進めている	・小学校、中学校、こども園、保育園との交流を例年よりも多く行うことができた。 幼児組だけではなく、乳児組も散歩の際に小学校、中学校に寄り、児童生徒と関わる機会をもつことができた	B	A		・交流の回数を増やすだけではなく、おねえをしつかりもって行っていく ・今年度は小学生から保育者にインタビューがあったが、来年度は子どもと児童で行い、就学への期待につなげたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園だよりを庵原地区の回覧板に、HPを年4回交流館に掲示している	・子ども達が庵原交流館へ園だよりを届け、掲示することにより園の行事や子どもの様子を伝えることができた ・地域公開日を通して、地域の方に園の様子を知っていただくことができた ・JAや農家の方の協力で、さつまいも掘りやプラム、みかん狩り体験することができた	B	A		・各学年が庵原交流館に園だよりを届けられるよう計画していく ・さつまいも掘りなど体験させていただいた時の発見や楽しかったことなどを、お世話になった方に絵や手紙で書き、感謝の気持ちを伝えていく